

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月25日

【評価実施概要】

事業所番号	2671200364
法人名	株式会社ケアトラスト
事業所名	グループホームメイプルリーフ宇治
所在地	〒611-0027 宇治市羽拍子町80-1 (電話) 0774-41-3288

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年9月3日	評価確定日	平成20年10月8日

【情報提供票より】(平成 20 年 7 月 29 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 6 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	24 人
職員数	38 人	常勤 13 人, 非常勤 25 人, 常勤換算 15.6 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての	1 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000・70,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,100 円	

(4) 利用者の概要(7 月 29 日現在)

利用者人数	24 名	男性	6 名	女性	18 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	9 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.2 歳	最低	75 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宇治武田病院、辰巳診療所、武田歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当該ホームは伊勢田駅よりほど近い住宅街の一角にあり、銀行の寮として使用されていた建物を改装し、3ユニットのグループホームに加え小規模多機能事業所も開設されました。ホームの理念は職員一人ひとりに浸透しており、理念に添ったケアを実践されているホームです。地域との関わりを大切にしており、ホームを地域に開放したり、地域の一員としての役割を担うなど、管理者始め職員は、利用者が地域で安心して暮らしていくための架け橋となって努力されています。またホームでは研修や勉強会を重ねて、職員のスキルアップを図り、利用者の重度化に備える体制作りをしています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善点は会議で話し合い、利用者に対しての声掛けには注意を払い、丁寧な言葉使いを心掛けています。トイレカーテンについては、いろいろ模索しましたが、利点もあるとの見解で、しばらくは様子を見ることとするなど、常に前向きに検討しています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の外部評価票は、各ユニットごとに、職員がカンファレンスで話し合い、それぞれ調整しリーダーがまとめました。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月に一度、併設の小規模多機能事業所と合同で、家族、地域住民、民生委員、地域包括センター職員、ホーム職員等が参加して開催されています。会議ではホームから現状報告やケース会議の内容報告がなされ、参加者の素朴な質問にも丁寧に答えています。また介護保険や認知症キャラバンメイトについての説明をするなど、有意義な会議となっています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日々の家族の来訪時や年に2回、家族にケアプランの説明のためホームに来てもらう際に家族からの要望や苦情を聞いています。また小さなことでも電話等で家族と相談し対応しています。また重要事項説明書に苦情の外部窓口や苦情処理体制を記載して、家族が意見を言いやすい環境づくりに努めています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に入会し、地域の一員として清掃活動に参加したり、地域の行事にも参加しています。花火大会の日にはホーム屋上を地域に開放し、利用者、家族と共に花火を觀賞しています。また防災訓練やもちつきの際にも地域に呼びかけ、近隣の人に参加してもらっています。ボランティアの受け入れにも積極的で、ホームと地域との良い関係が築かれています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念である「支え合い」「自立」「開放」「前向き」は、地域密着型サービスとして地域に発信する言葉でもあります。当該ホームは小規模多機能事業所と同じ場所にあり、共通理念として玄関や1階廊下に掲げ、家族や外部者からも見える位置に掲示し、契約書にも掲載しています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業主や管理者は、理念の意義や大切さを常に会議等で職員に説明し、日々のケアを振り返りながら全員で話し合い、理念の共有を図っています。職員は勤務前に、理念を自分の中で確認してから、業務に当たるよう努めています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会し、年に一度の溝掃除に職員が参加しています。地域の地蔵盆や敬老会、運動会に参加したり、花火大会の日にはホーム屋上を地域に開放し、利用者、家族と共に花火を観賞しています。また防災訓練やもちつきの際にも地域に呼びかけ、近隣の人に参加してもらっています。ボランティアの受け入れにも積極的で、ホームと地域との良い関係が築かれています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の外部評価票は、各ユニットごとに、職員がカンファレンスで話し合い、それぞれ調整しリーダーがまとめました。改善点は会議で話し合い、利用者に対しての声掛けには注意を払い、丁寧な言葉使いを心掛けています。トイレカーテンについては、いろいろ模索しましたが、利点もあるとの見解で、しばらくは様子を見ることとなりました。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、併設の小規模多機能事業所と合同で、家族、地域住民、民生委員、地域包括センター職員、ホーム職員等が参加して開催されています。会議ではホームから現状報告やケース会議の内容報告がなされ、参加者の素朴な質問にも丁寧に答えています。また介護保険や認知症キャラバンメイトについての説明をするなど、有意義な会議となっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、困難事例の相談のためや事故報告書を持参するなど、市担当者をたびたび訪問し、相談しています。また毎月2回介護相談員の来訪を受け、市から報告書をもらい、年に何度かは相談員との会議に参加して意見交換を行い、職員のスキルアップに活かしながら、サービスの向上に努めています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の様子や健康状態、受診の内容、行事やレクリエーションの内容をメイプル通信に写真を添えて毎月の請求書と一緒に郵送しています。また家族の面会時にも暮らしぶりを報告しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の家族の来訪時や年に2回、家族にケアプランの説明のためホームに来てもらう際に家族からの要望や苦情を聞いています。小さなことでも電話等で家族と相談し対処しています。また重要事項説明書に苦情の外部窓口や苦情処理体制を記載して、家族が意見を言いやすい環境づくりに努めています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	年に3回、職員は自己評価を行い、事業主と面談して、希望や悩みを聞いてもらう機会があります。常勤会議後に食事会をしたり、非常勤の懇親会をして、職員のストレスを解消しています。また新しい職員はベテラン職員にマンツーマンで指導を受け、慣れてから夜勤に入ること、利用者のダメージを防ぐ配慮をしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	3か月に一度の常勤会議内で、内外の参加したい研修を決め、順番に研修に参加してもらっています。非常勤の職員も研修に参加してもらっています。研修後は報告書を書いて、月に一度の職員会議で報告しています。またホーム内でも救命救急、マナーや法令遵守についての勉強会を行ない、職員のスキルアップを図っています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇治市や京都府のグループホーム連絡会には、管理者だけでなく職員も同行して参加し、意見交換等の交流をしています。また法人内の他事業所と交流し、見学したり、交換研修の予定もあります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学していただき、希望があれば他の利用者や職員と一緒に食事やお茶を楽しんでいただいています。また、体験期間を設けることも可能です。入居後も職員は家族と連携をとり協力を得ながら、利用者が徐々に馴染めるような支援をしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日々、利用者と接する中で、食材の切り方や味付け、菜園の野菜の収穫時のアドバイスをもらうなど、利用者から教わったり、助けってもらったりする場面が多くあります。また一緒にリハビリ体操や歌を歌ったりしながら共に楽しみを分かち合う関係を築いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	アセスメントはセンター方式を取り入れ利用者の思いや意向を記録に残しています。ADLに変化があれば、記入し、会話は個人ケースファイルに落とし込んでいます。日々の会話の中から、職員はなるべく利用者が出来ることを引き出し、一緒に行いながら、生きる張りを与えています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各ユニットごとに月2回、カンファレンスを開催し、職員の思いや気づきが反映された介護計画が作成されています。作成された介護計画書は、家族に見せて意見を聞き、書き直す場合もあります。しかし、介護計画書に利用者及び家族の希望が記入されていません。	○	介護計画書は利用者や家族の意向や希望に添って、利用者が地域においてより良く暮らす支援として、なにが必要かを考え、利用者本位の検討を行うことが大切です。まず計画を立てる前に家族の意向や希望を聞き、計画書に落とし込まれ、それに基づいた話し合いが行われることを期待します。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	カンファレンスで話し合い、6か月に一度、介護計画の見直しが行われています。また状態に変化が見られる利用者に対してはその都度見直しを行っています。しかしモニタリング、評価は記録としては残っていません。	○	介護計画に添った実践を記録するため、介護計画に記号をつける等して、介護記録に落とし込み、モニタリング、評価を実施、記録した上で見直しされる事を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームでは家族が行けないときの通院介助、利用者の希望による理美容、下着や洋服の買い物同行、また利用者の希望により、祥月命日に檀家であるお寺さんに供養に来てもらっています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームでは入居時に利用者、家族に希望を聞き、かかりつけ医を決めており、以前のかかりつけ医を利用している方も7,8人居ます。毎月一度、ホーム医の往診があり、以前のかかりつけ医を利用している方についても診ていただいています。また緊急時にはホーム医に相談して指示をうけ、速やかに対応するように努めています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは看取りの経験もあり、家族、主治医、ホーム職員が何度も話し合いを持ち、看取りについての方針を決定しています。現在も家族の希望で全介助の利用者のケアをしています。救急搬送になったり主治医の判断で在宅酸素等、医療処置が必要になるまでは、ホームでケアしたいと考えられています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者のプライドを傷つける言動は慎み、全体会議の中で言葉使いについて勉強会をする等、常に注意を払っています。また個人情報などは各ユニットの戸棚に収納して、利用者や外部者の目に触れないようにするなどの配慮をしています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、無理強いすることなく、希望に応じたドライブや散歩、買い物等、外気に触れることで入眠を促す支援をしています。職員は利用者のそのときの状態や気分配慮しながら、思い思いに過ごせるように支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に希望を聞いて、担当職員が、毎食同じ材料が重ならないように注意しながら、献立を決めています。週に一度は利用者と一緒に買い物に出かけたり、下ごしらえ、調理、後片付け等を手伝ってもらっています。また、味についても気を配りながら調理しています。食事は利用者と職員が同じテーブルで同じものを、会話を楽しみながら、いただいています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	各ユニットごとに、利用者の希望を聞き、午前か午後に入浴しています。利用者全員が2日に一度は入浴できるように支援しています。急な希望があるときは、別ユニットで入浴させてもらったりすることもあります。体調や拒否で入浴出来ないときには、シャワー浴や清拭、足浴で対応しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者には洗濯、買い物、花の水やり、ぞうきん縫い等の役割を担っていただき、張りのある生活をしてもらっています。また職員と一緒に、トランプ、将棋、歌などを楽しみ、天気の良い日には、椅子を表に出して、玄関先でお茶を楽しむこともあります。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩はもちろんのこと、買い物やドライブにも出かけています。植物園や宇治川ラインのドライブ、夜に螢を観に出かけたり、弁当持参や外食を兼ねた外出など、職員は行事を通じて利用者とは出かける機会をなるべく多く持つように、心がけています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関を開けており、誰でも気軽に出入りできるようになっており、玄関を入るとガラスの向こうに事務所があり、出入りがよくわかる工夫がされています。また各ユニットの出入り口や踊り場なども施錠されており、解放感があります。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に一度は消防署の指導の下、日中を想定して消火器の使用方法などの避難訓練を開催しており、1、2名ではあるが近隣の参加もあります。防災マニュアルもあり、水などの備蓄の用意もあります。地域で行われる防災訓練へは参加しておらず、いざという時に地域の協力体制が得られるよう日頃から働きかけていきたいという思いがあります。	○	地域との良好な関係を活かし、行事の際や運営推進会議等で呼びかけ、地域の消防団や近隣の人々との協力体制を得られるような働きかけの実現が期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量については、必要な利用者のみ、記録に残して、主治医や家族に報告していません。水分補給については特に気をつけ、声をかけ摂取してもらっています。利用者の状態に応じて、おにぎりにしたたり、細かくきざんで食べやすくしたりして提供しています。栄養補強剤などを利用しながら、食事のバランスについても気を使っていますが、専門家の意見等は聞いていません。	○	職員が作成した献立が、バランスのとれたものとなっているかを、専門家にチェックしてもらう機会をもたれることを期待します。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに季節の貼り絵や利用者の作品を飾ったり、職員が利用者の似顔絵を描き、掲示しています。2.3階は対面キッチンで広さも十分あります。また玄関先にベンチを設けたり、各ユニット廊下にソファや椅子を置き、一人でくつろげるスペースを確保しています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階居室はフローリングで、2.3階の居室はフローリングに畳スペースも付いたとても広い造りとなっており、冬場は畳の上にこたつを置いている利用者もいます。利用者は自宅から、家具、鏡台、仏壇、テレビ、家族の写真等を持ってこられています。入口にのれんをかけて、居室が解り易くしている利用者もいます。		